

二つの文化と社会革命

河田潤一（神戸学院大学）

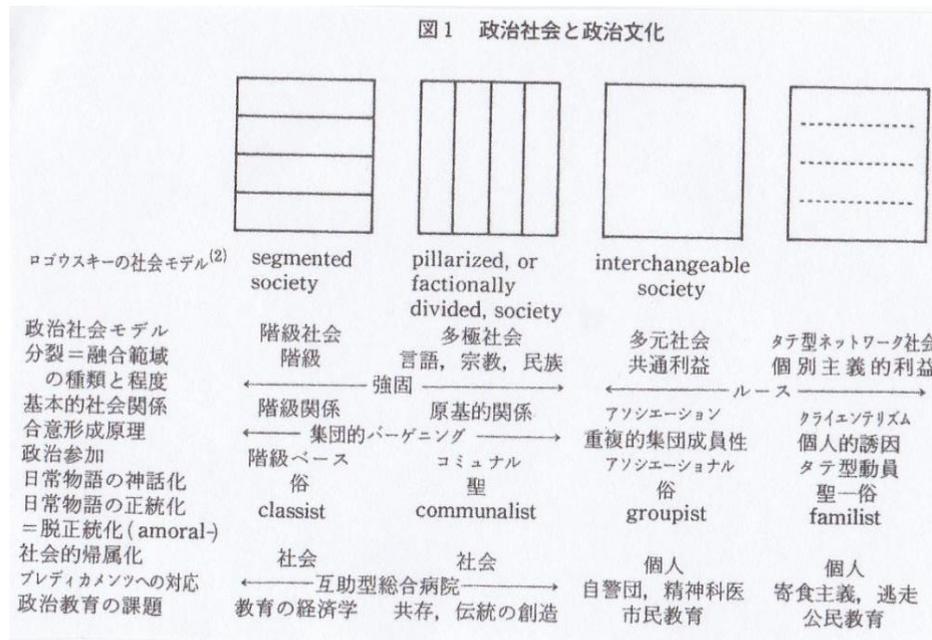
[2017年6月3日：於 武蔵野大学]



「人類学的な視野に立てば、一方の科学者、他方の人文的知識人がともに文化として、現実存在するのである。すでに以前にのべたように、そこには行動にたいする共通の態度、共通の規準、共通のパターンや、共通のアプローチの仕方や前提があるのである。このことはなにも、ある文化に属する人が自分の個性や自由意志を失っているということではない。それはわれわれが識らないうちに想像以上に、自分たちの時代、場所、教育の生んだ子供となっているということである。」(C・P・スノー [松井卷之助訳]『二つの文化と科学革命』みすず書房 1967年)

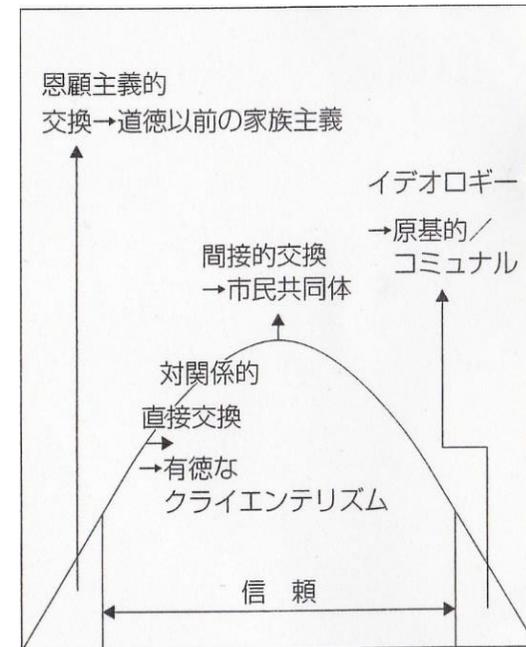
「4、5年前、ヨーロッパのいくつかの国を、訪れる機会があった。『豊かさのなかの貧困』とは、生活水準が一応保たれた人の気楽な戯言ではないかと思わせる、さまざまな貧困に出会った。ロンドンの地下鉄駅の木製エレベーターは、人を数層にもわたって地下深く導くが、その全き地底で、一箱のマッチを道行く人を買ってもらおうと、うつろな目をこちらに向ける老人、シチーリャ島はパレルモのスラム住人。周辺性、悲観性、依存性、現在指向性という点では、双方は共通していた。その限りで『貧困の文化』を分かちもっていた。しかし、私にはロンドンでみた老人のほうが、いっそう救いようのないもののように感じた。それは、地底の暗さとパレルモの灼熱の太陽が、私に醸しだす気分の違いが一因であったかもしれない。しかし、貧困がたんに物質水準の問題だけにとどまらず、社会関係の反映だとすれば、なんらかの社会的ネットワークに良かれ悪しかれつなぎとめられたパレルモでの貧困は、階級社会からはじきだされたロンドンの老人のそれより、あるいは悲惨でないのかもしれない。」（「はしがき」『比較政治と政治文化』1989年）

「午前中いっぱい、見残したメンフィスの街をみて歩き、午後はブラウンズヴィルにもどって、夕食はロータリー・クラブの会合に出た。この町には二百人ばかりのロータリアンがいるというが、もしかするとそれは白人家族の戸主を全部合わせた数に等しいかもしれない。いずれにしても人口五千の町に二百人のロータリアンというのは、この町に住む白人のほとんどが、かなりの実業家だというわけだ。」（安岡章太郎『アメリカ感情旅行』1962年）



＜社会革命＞

- “civility”(Jessop)
- “clientelismo Virtuoso” (Piattoni)
- “intermediation” (Schmitter)
- social capital
- civic education
- “proximité idéologique”(Percheron)



- 「政治的社会化と媒体」(1974年) 六甲台論集 21 卷 1 号
- (書評) P・A・アラム著『戦後ナポリの政治と社会』(1975年) 六甲台論集 22 卷 2 号
- (書評) J・ペトラス、H・S・メリノ著『反乱する農民—チリに関する一つの事例研究、1965-1971』(1976年) 六甲台論集 22 卷 4 号
- 「『ワーキング・クラス・トーリーズ』についての一考察」(1977年) 甲南法学 17 卷 1 号
- (書評) R・D・パトナム著『政治家の信条構造—イギリスとイタリアにおけるイデオロギー・紛争・民主主義』(1977年) 甲南法学 17 卷 4 号
- (翻訳) ルイジ・グラティアーノ著「『恩顧主義(Clientelism)研究の概念枠組』」(1978年) 甲南法学 18 卷 3・4 号
- 「イギリス政治文化に関する一考察—『デファレンス』」(1978年) 甲南法学 18 卷 3・4 号
- 「現代フランスにおける政治的社会化に関する一考察」(1982年) 甲南法学 22 卷 1-4 合併号
- (翻訳) フィリップ・C・シュミター著「いまだにコーポラティズムの世紀なのか」(1982年) 甲南法学 23 卷 1 号
- 「恩顧主義に関する一考察」(1983年) 甲南法学 24 卷 1 号
-
- “The Child’s Discovery and Development of ‘Political World’: A Note on the United States”(1986年) 甲南法学 26 卷 2・3 号
- 「社会的クリーヴィッジと政党システムの変化」(1986年) 西川知一編『比較政治の分析枠組』ミネルヴァ書房
- “Political Socialization in Contemporary Japan”(1987年) *International Political Science Review*, 8: 3.
- 『比較政治と政治文化』(1989年) ミネルヴァ書房
-
- 「政党派閥とクライエンテリズム」(1996年) 西川知一・河田潤一編『政党派閥』ミネルヴァ書房
- (報告)“Clientelism and Corruption”[比較政治プロジェクト「政治変動の研究—日本・イタリア比較」](1998年) フランス国際調査研究センター
- (翻訳) ジェイムズ・ジェニングズ著『ブラック・エンパワーメントの政治』(1998年) ミネルヴァ書房
- 「『公的争点分析アプローチ』と市民教育—ハーバード社会科プロジェクトをめぐって」(1999年) 姫路法学 25・26 号
- “Heurs et malheurs du clientélisme: Étude comparée de l’Italie et du Japon”[with Mario Caciagli](2001年) *Revue Française de Science Politique*, 51:4.
- (翻訳) ロバート・パトナム著『哲学する民主主義』(2001年) NTT出版
- 「政治学教育の意義と方法」(2002年) 『二一世紀の法と政治』(大阪大学法学部創立50周年記念論文集)

「アメリカ都市部における学校改革の政治学—『市民能力と都市教育プロジェクト』の紹介を中心として」(2002年) 阪大法学 52 巻 3・4 号
〔翻訳〕ドナテッラ・デッラ・ポルタ、アルベルト・ヴァヌッチ著『盗賊支配』(2003年) 阪大法学 53 巻 2 号
「マフィア・暴力的腐敗・非市民性」(2003年) 阪大法学 53 巻 3・4 号
「<ブラック・エンパワーメント>小論」(2005年) 阪大法学 55 巻 3・4 号
〔翻訳〕シーダ・スコッチボル著『失われた民主主義—メンバーシップからマネージメントへ』(2007年) 慶應義塾大学出版会

「社会資本、信頼と民主主義」(2009年) 阪大法学 59 巻 3・4 号
「コミュニティ関与と学校改革の政治学—戦後アメリカにおける二つの事例紹介を中心として」(2011年) 甲南法学 50 巻 4 号
“Interview with Philippe C. Schmitter: A Titan of Comparative Politics”(2011年) 甲南法学 51 巻 3・4 号
「市民教育の政治学—アメリカ合衆国を中心として」(2011年) 阪大法学 61 巻 1 号
「グローバリゼーションの影響下で市民社会を賦活する」(2011年) 国際高等研究所報告書 1001 号
「産業地域事業団 (IAF) のプログレッシブ・ポリティックス—アメリカにおける草の根民主主義の実践に向けて」(2011年) 阪大法学 60 巻 3・4 号
「震災復興・減災の政治社会学—『社会資本(social capital)』論から考える」(2012年) 阪大法学 62 巻 3・4 号
「アドボカシー—アメリカ政治の一断面」(2013年) 現代の図書館 51 巻 3 号
『社会資本 (ソーシャル・キャピタル) の政治学』(2017年) 法律文化社

Almond, Gabriel A. & Sidney Verba (1963), *The Civic Culture*, Princeton University Press. [石川一雄他訳『現代市民の政治文化』勁草書房、1974年]

Banfield, Edward C. (1958), *The Moral Basis of a Backward Society*, The Free Press.

Jessop, Bob (1974), *Traditionalism, Conservatism and British Political Culture*, George Allen & Unwin.

Percheron, Annick (1974), *L'univers politique des enfants*, Almond Colin.

Piattoni, Simona (2005), *Il Clientelismo: L'Italia in prospettiva comparata*, Carocci editore.

(提言) 日本学術会議政治学委員会「高等学校新設科目『公共』にむけて—政治学からの提言」(2017年2月)[日本学術会議HP]